

講義科目名称： 問題発見の技法

授業コード： 13104060

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（2Q）	1・2・3・4	1	選択
担当教員			
佐藤 文昭			
区分	科目番号	曜日・時限	
添付ファイル			

対象学生	全学部、山梨大学生、科目等履修生（社会人・高校生等）、特別聴講生（大学コンソーシアムやまなし等）
授業の目的	先行きが不透明なVUCAの時代において、私たちを取り巻く問題は、複雑化・複合化しています。その背景にはどのような事実があり、それはどのように構造化され、私たちの意識と結びついているのでしょうか？本科目では、「システム思考」や「デザイン思考」の考え方を学びながら、アンケートや統計などの量的データとインタビューなどの質的データを用いて、ワークショップ形式により各自の問題意識を深掘りしていきます。それにより、業種や職種、年齢を問わずこれからの時代に共通して求められる、自ら考え、問いを立てるためのものの見方・考え方を身に付けることを目指します。
学士力A	技法力
学士力A（ウエイト）	○
学士力B	思考力
学士力B（ウエイト）	◎
学士力C	実践力
学士力C（ウエイト）	○
学士力D	
学士力D（ウエイト）	
学士力E	
学士力E（ウエイト）	
学士力F	
学士力F（ウエイト）	
学士力G	
学士力G（ウエイト）	
学士力H	
学士力H（ウエイト）	
到達目標No.1	目に見えている出来事を掘り下げていくための技法について理解することができる。
到達目標No.1（学士力対応）	技法力
到達目標No.2	理解した技法を用いて、目に見えている出来事の根本にある問題を把握することができる。
到達目標No.2（学士力対応）	思考力
到達目標No.3	興味関心を持ち積極的に課題に取り組むことができる。
到達目標No.3（学士力対応）	実践力
到達目標No.4	
到達目標No.4（学士力対応）	
到達目標No.5	
到達目標No.5（学士力対応）	

成績評価の方法	評価の方法	割合(%)	評価の基準
	目標No. 1	40%	各回の発表により評価する
	目標No. 2	40%	最終回の発表により評価する
	目標No. 3	20%	各回の授業参加姿勢により評価する
授業の方法	講義内容を踏まえたワークショップ形式で行います。 ノートパソコンまたはタブレット端末を使用するので、各自毎回用意すること。		
受講に際して・学生へのメッセージ	本科目は、シンクタンクで実際に行っている調査研究プロセスを、分かりやすく解説しながら進めます。 調査研究のみならず、様々な企画の立案や事業創発、また日常生活における問題解決にも役立つ内容です。		
教科書	テキスト	なし。	
	参考書	梶谷真司『問うとはどういうことか—人間的に生きるための思考のレッスン』大和書房 デイヴィッド・ピーター・ストロー『社会変革のためのシステム思考実践ガイド』英治出版	
授業計画の概要	1		
	タイトル	(6/13金) 問うこととは何か？	
	授業内容	「デザイン思考」と「システム思考」を通じて、私たちにとって問うこととは何かについて考える。	
	事前学習		
	事後学習	授業後の振り返り	
	2		
	タイトル	(6/20金) 問題の「種」を見つける	
	授業内容	「地域幸福度 (Well-being) 指標」 (https://well-being.digital.go.jp/) に基づくアンケート結果を踏まえて、各自の問題意識を明らかにする。	
	事前学習		
	事後学習	授業後の振り返り	
	3		
	タイトル	(6/27金) データから考える	
	授業内容	e-stat (https://www.e-stat.go.jp/) などの統計データを用いて、問題意識の背景にある事実を明らかにする。	
	事前学習		
	事後学習	授業後の振り返り、データリサーチ	
	4		
	タイトル	(7/4金) パターンを見つける	
	授業内容	ディスカッションを通じて、データから明らかになった事実と各自の問題意識の間にある関係性について考える。	
	事前学習		
	事後学習	授業後の振り返り、データリサーチ	
	5		
	タイトル	(7/11金) 構造化する	
	授業内容	ループ図を用いて、データにより明らかとなった事実と各自の問題意識を構造化する。	
	事前学習		
	事後学習	授業後の振り返り	
	6		
	タイトル	(7/18金) 意識を探る	
	授業内容	構造を生み出している人の意識を探るために、各自の身近な人へのインタビュー調査を行う。	
事前学習			
事後学習	インタビューの実施		
7			
タイトル	(7/25金) 問題を再定義する		
授業内容	インタビュー調査結果から得られた情報を踏まえて、解決すべき問題を再定義する。また、次回の発表に向けた資料作成を行う。		
事前学習			

	事後学習	情報の整理、発表資料の作成
	8	
	タイトル	(8/8金) 発表する
	授業内容	これまでのワークを踏まえて、各自が辿り着いた新たな問題について発表する。
	事前学習	
	事後学習	授業後の振り返り
実務経験のある教員による授業科目の概要	大手及び県内シンクタンクにおいて国及び自治体の政策立案などの実務経験を持つ担当教員が、実践的な指導を行います。 また本科目は、公益財団法人山梨総合研究所の研究員がワークのサポートを行う予定です。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、16：30～18：00の時間帯に山梨県立大学飯田キャンパスで実施します。 ・他大学の学生や社会人等とともに学ぶ「PENTAS YAMANASHI」の科目です。 	